

第4回 9月10日(月) 15:00~

サロンコンサート

歌・はなし：柳家小三治、ピアノ：岡田 知子

「歌ま・く・ら」

ボクは歌の好きな少年だった ~そして、今も~

~ プログラム ~

- ・ 「砂 山」 作詞：北原白秋 / 作曲：山田耕筰
- ・ 「落葉松」 作詞：野上彰 / 作曲：小林秀雄
- ・ 「シロフォンの雨」 作詞：西沢爽 / 作曲：米山正夫
- ・ 「山のけむり」 作詞：大倉芳郎 / 作曲：八洲秀章
- ・ 「無縁坂」 作詞・作曲：さだまさし
- ・ 「長崎の鐘」 作詞：サトウハチロー / 作曲：古関裕而

他

(プログラムは都合により変更となる場合があります)

<小三治師匠への小賛辞>

小三治師匠が“音楽通”である事は、つとに有名である。「通」という言葉には、今風に言う「オタク」とは違い、凝り固まっていない風通しの良い感性が言い表されている。師匠は正にそういう方である。

いろいろな偶然が重なり、ご一緒に演奏するようになり、もう三年が過ぎた。札幌でのコンサートが、ソニーミュージックよりライブ録音という形で、一枚のCDになり、それを聞いて下さった皆様から、是非師匠の歌を生で聴きたいというご希望をいただいた。しかし、師匠の本業である寄席、また全国での落語会のスケジュールの間を縫いながら、コンサートをすることは至難の業であった。このたび、軽井沢土曜懇話会ならぬ、軽井沢月曜懇話会にさせていただき、やっと実現した次第である。

一曲の歌から、過ぎし時代の風景が浮かび、同じ時代に生きた私たちの心の思い出までが蘇ります。乞うご期待!

岡田知子

柳家 小三治 噺家

略 歴：

- 昭和33年 東京都立青山高等学校卒業
- 昭和34年 柳家小さん入門 前座名「小たけ」
- 昭和38年 二つ目昇進 「さん治」に改名
- 昭和44年 17人抜きの抜擢で真打昇進 十代目「柳家小三治」を襲名
- 昭和51年 放送演芸大賞
- 昭和56年 芸術選奨文部大臣新人賞
- 平成16年 芸術選奨文部科学大臣賞
- 平成17年 紫綬褒章受章

主な著書：

- 「バ・イ・ク」 柳家小三治〔著〕 / 講談社 H. 17 出版
- 「もひとつ ま・く・ら」 柳家小三治〔著〕 / 講談社 H. 13 出版
- 「落語家論」 柳家小三治著 / 新しい芸能研究室 H. 13 出版
- 「小三治名席」 柳家小三治〔著〕 / 講談社 H. 12 出版
- 「ま・く・ら」 柳家小三治〔著〕 / 講談社 H. 10 出版

岡田 知子 ピアニスト

東京芸術大学器楽科を卒業後、北西ドイツ音楽アカデミー・デトモルトへ留学。声楽の伴奏、器楽とのアンサンブルを学ぶ。K・シルデ、G・バイセンポルンに師事。1976年同校を首席で卒業。1977年1月ベルリン、メンデルスゾーン・コンクール、ピアノ・トリオ部門第一位入賞。同年10月ジュネーブ国際音楽コンクール、ピアノ・トリオ部門第二位（一位空席）及びスイス特別賞受賞。1978年帰国、以降アンサンブルピアニストとして活発なコンサート活動を続けている。

また来日演奏家との共演、CD録音、コンサートのプロデュース等々、多方面で活躍している。毎夏、草津夏期国際音楽祭、そしてスイスで開かれるチューリヒ・マスター・コースに専属ピアニストとして招かれている。